

議会だより

ひだか

第167号

令和3年10月25日



コロナ対策などで大幅な歳出増	令和2年度決算	2～3
インフルエンザ予防接種に助成	補正予算	4～5
子育て支援の充実を	一般質問	6～8
空き家対策を積極的に	委員会レポート	9～10

志賀保育所の運動会

【発行】 日高町議会 〒649-1213 和歌山県日高郡日高町大字高家626
【編集】 議会広報特別委員会 TEL (0738) 63-3810 Eメール gikai001@town.wakayama-hidakaka.lg.jp

令和2年度決算を認定

一般会計歳出決算 58億5,494万円
特別会計歳出決算 24億2,672万円

主な特別会計歳出決算

国民健康保険特別会計	8億5,171万円
下水道事業特別会計	4億3,556万円
介護保険特別会計	8億7,304万円
後期高齢者医療特別会計	2億 309万円

水道事業会計

営業収益・営業外収益から営業費用・営業外費用を引くと、2,460万円の赤字決算である。

給水戸数	3,548戸 (49戸の増加)
給水人口	7,877人 (26人の減少)
年間総給水量	80万8,035m ³ (13,124m ³ の増加)

(令和3年3月31日現在)

第3回定例会は9月10日から22日まで13日間の会期で開催した。今定例会では、令和2年度一般会計、特別会計、水道事業会計の決算を認定した。

また、令和3年度補正予算及び条例等議案8件、諮問2件、報告1件、発議1件が提案され、慎重審議の結果、原案の通り可決した。

監査委員の意見

歳入

例年よりもさらに厳しい経済情勢の中で、昨年度と比べると寄付金は4418万3千円の収入増となっているが、町税は88万8千円の収入減で、収入未済額は、徴収猶予制度により増大しており、依然として厳しい状況である。税・料における収入未済額の一部が長期化・固定化しており、その発生・増加に十分留意し、引き続き最大限の徴収努力を望むものである。

歳出 一般会計

依然として依存財源による財政事情に変わりはなく、經常収支比率が高い状態が続くことが懸念される。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、特別定額給付金事業や地方創生臨時交付金を活用した各種事業、また志賀小学校増改築事業などにより、歳出総額は昨年度と比較し約18億円の増となっており、今後も新型コロナウイルス感染症対策に要する費用の増加が懸念される。

また、財政調整基金は、対前年度末基金残高で9518万8千円増の11億732万9千円で、地方債は、対前年度末地方債残高で2億7157万5千円の増となっており、新型コロナウイルス感染症対策、御坊広域清掃センター施設整備、クリーンセンター建設工事にかかる負担金、公共施設修繕などによる支出の増加も見込まれることから、事務事業の見直しなどを含め、より一層の健全財政の堅持を心がけていただきたい。

しかしながら、職員においては、コロナ禍で事務及び事業量も増加している中、業務に取り組み、着実に成果を上げている。今後、快適で安全・安心な住環境整備に取り組みとともに、住民福祉の向上に寄与されるよう望むものである。

3年度一般会計補正予算

既定の予算額に646万4千円を追加し、46億8876万6千円とする。

主な内容は、歳入で、地方特例交付金の決定により282万6千円、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金で760万7千円、土地売却収入で354万3千円、前年度繰越金で6746万2千円、社会資本整備総合交付金債務弁済金で933万4千円などを追加。

歳出で、町例規集更新委託料で297万円、インフルエンザ予防接種委託料で2056万5千円、農業機械購入助成にかかる農業経営改善支援事業補助金で65万5千円など。

問 助成の方法は。
子育て福祉健康課長

65歳以上の方については、個人負担無料という通知文を送る。65歳未満の方については、1回2千円のクーポン券を配布する。

問 橋梁長寿命化の使途変更がされているが、長寿命化に取り組む橋についての変更等があるのか。

産業建設課長 当初予算

で修繕が必要な4橋の内1橋について、測量設計委託料と工事請負費を計上していたが、委託業務の精算減により委託料から工事請負費へ予算配分を変更し、修繕工事の進捗を図る。修繕が必要な4橋（原谷地区の新出橋、池田地区の小井橋、小杭地区の小杭橋、内の畑地区の高露橋）に変更は無

い。

その内3橋については、令和2年度繰越予算と3年度予算をもって、修繕工事を行う予定である。残る1橋（内の畑地区の高露橋）については、令和4年度に工事を行う予定である。

問 町道高家中央線の予算の振替が行われているが、その理由と、替えたことによって工事請負費、公有財産購入費、補償補填及び賠償金等が当初予算からどう変わったか。

産業建設課長 当初予算で用地購入2件と物件補償2件、道路改良工事延長25mを施工する予算計上をしていたが、天満井橋北詰の宅地の物件補償と用地買収について、交渉がスムーズにいったことから、令和2年度の繰越予算で契約締結をすることが出来た。これにより、用地購入費と物件補償費を減額して、工事請負費へ予算配分を変更し、工事の進捗を図る。

問 令和3年度分の工事が約2800万円追加されて、令和3年度の工事費は最終的に幾らになるのか。

産業建設課長 当初予算

で345万3千円を計上している。それに今回の補正2804万7千円の予算配分を変更して、県道比井紀伊内原停車場線側から工事を着工していく。それと同時に、天満井橋の橋台、橋脚の撤去工事を補正予算を含めた工事請負費で行う。

問 農業経営改善支援事業補助金の説明を。

産業建設課長 当初予算で50万円を計上していたが、7月に認定農業者1名の方からコンバインを購入したいとの申請があり、当初予算分を執行した。その後、新規就農者1名から草刈り機を、認定農業者1名から、田植え機を購入する申請があり、補助額で合計65万5千円を補正するものである。

企画まちづくり課長

問 インフルエンザ予防接種の関係費委託料の説明を。

65歳以上の高齢者については、インフルエンザ予防接種の自己負担分の無償化による分で、13歳以上65歳未満については、自己負担2千円減額に係る分である。12歳以下については、インフルエンザ予防接種2回分に係る

自己負担4千円減額に係る分である。

子育て福祉健康課長

問 それぞれの年齢区分での対象人数と見込み人数は。

65歳以上の対象者は2357名、18歳以下は1425名、19歳〜64歳は4081名である。接種率80%を見込んでいる。



撤去される天満井橋

人権擁護委員

人権擁護委員に楠原晃紹氏、塩崎貢氏を推薦したいと議会に意見を求められ、議会は適任とする答申をした。



楠原 晃紹 氏 (志賀)
塩崎 貢 氏 (比井)

教育委員

教育委員に前田幸伸氏を任命したいと議会に同意を求められ、議会は同意をした。



前田 幸伸 氏 (志賀)

3年度国保会計補正予算

既定の予算額に3290万8千円を追加し、9億2912万3千円とする。

主な内容は、歳入で、繰越金2970万4千円、令和2年度診療報酬精算還付金で320万1千円。歳出で、国民健康保険基金積立金2557万3千円、一般会計繰出金で359万4千円など。

意見書を政府に提出

コロナ禍による厳しい財政状況に対処し
地方税財源の充実を求める意見書

1. 令和4年度以降3年間の地方一般財源総額については、令和3年度地方財政計画水準を確保するとされているが、社会保障関係経費が増大している現状を踏まえ、十分な総額を確保すること。
2. 固定資産税は、市町村の極めて重要な基幹税であり、制度の根幹を揺るがす見直しは、断じて行わないこと。また、生産性革命の実現や新型コロナウイルス感染症緊急経済対策として講じられた固定資産税等に係る特例措置は、国庫補助金により対応すること。
3. 炭素に係る税を創設又は拡充する場合には、その一部を地方税又は地方譲与税として地方に税源配分すること。

問 当初予算の時に国保税の税率を引き下げるという考え方があったかと思う。6月に税率改正が行われず、前年度繰越金2970万4千円であるの内2557万3千円を基金に積み上げ、基金の今年度末見込みが2億914万2千円となっている。

年度当初に言われた1人当たりの税額の引き下げが実行されたのか。

また、2億円を超える基金の妥当性の説明を。

参事(事務課長) 当初予算では、必要な税額を確保するために基金から

3千万円を繰り入れた。

6月の試算で、税額を確保する見込みであったので、税率の変更は考えなかった。7月の本算定では運営協議会答申での1人当たり税額よりは上がっている。当初予算を算定する段階では、コロナの影響で所得が低くなるという見込みで基金から繰り入れたが、所得があまり下がらなかったため、1人当たりの税額が上がったのではないかと思われる。

いきいき長寿課長 基金残高が増えた要因は、平成29年度に医療費が下が

ったこと。また共同事業交付金が拠出金を上回ったことにより、繰越金を基金に積むことになったことが大きい。平成30年度から国民健康保険の県下統一化がスタートし、令和3年度は4年目を迎えた。令和3年度の当初予算においても3千万円を基金から繰り入れている。

今後の国民健康保険基

金の活用については、運営協議会和歌山県の国民健康保険の運営方針に基づいた取り組みを実施していく中で、有効かつ適切に活用していく。資産割の廃止もいわれている。資産割をなくすと、所得割にも、全体的にも影響が出てくる。その検討の中で、激変緩和措置など、基金を活用していきたい。

榮 茂美 議員

鳥獣被害への対策は
町長 各地域の要望に応じて考える



榮 平成23年2月に設立した日高地域鳥獣被害対策本部は、どういった活動をしているのか。

町長 日高地域7市町長と日高振興局長で組織する対策本部で、関係課長と担当による幹事会で業務運営し、鳥獣被害対策の効果的な推進を目的に相互に連携して活動している。

榮 昨年の本部研修会で、鳥獣害対策専門家から、野生動物の捕獲だけ進め

ても被害は減らないので、以下4点の取り組みと合わせてやるべきだと言われたが、日高町は取り組んでいるのか。

町長 1点目、収穫しないで放置したままの果樹や野菜がサルを餌付けしている状態なので、そういった誘引物の除去を行う。

町長 放棄果樹の対策や、収穫しない野菜やヒコバエの早急な耕起をお願いしている。

榮 2点目、柵の設置。

町長 農作物鳥獣害防止対策事業で、柵の設置補助を農家の方々に利用してもらっている。

榮 3点目、追い払い。

町長 追い払い用花火の講習会を開催し、花火の購入助成を行っている。

榮 昨年7月から上志賀地区で実施しているテレメトリー調査はどうなっているのか。

町長 昨年7月以降のサルの移動範囲で、上志賀地区から高家地区にかけての移動においては、上志賀地区での目撃情報が圧倒的に多く、受信機に反応のある時やサルを目撃した場合は、地区の方が協力し追い払いを行うとともに、サルの群れが集中する場所に中型ワナを設置した。

榮 4点目、エサ場や隠れ場となるヤブをなくし見通しを良くする。

町長 平成22、24年度にかけ緩衝地帯の整備を行い、維持管理を地区の方々に実施しているが、関係者の高齢化などにより負担が大きくなっている状況である。

榮 サルの群れの行動域の掌握で、捕獲の効率化と追い払いの負担軽減ができる。今後、テレメトリー調査を町内全域に広げてもらいたい。

町長 放棄果樹の対策や、収穫しない野菜やヒコバエの早急な耕起をお願いしている。

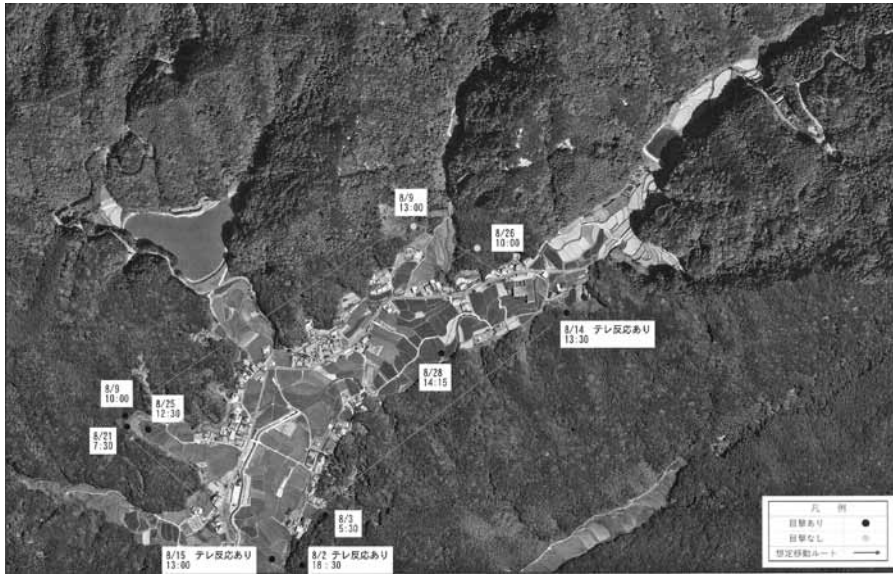
町長 テレメトリー調査は、柵の設置補助を農家の方々に利用してもらっている。

町長 テレメトリー調査は重要で、それを継続して行うことで、より正確なサルの行動域を掌握できる。

町長 3点目、追い払い。

町長 追い払い用花火の講習会を開催し、花火の購入助成を行っている。

町長 原谷、萩原、池田、比井崎地区を行動範囲とするサルの群れも存在するので、各地区で取り組んでもらえるよう、地域の意向を聞いていく。



町内全域でテレメトリー調査の実施を（写真は上志賀地区）

他の一般質問

「日高町のデジタル社会とは」

「町民プール運営の今後の考え方」



宮本 雅文 議員

防災対策は大丈夫か 町長 積極的に支援・協力する



助成を受けた防災資機材

宮本 30年以内に東南海地震が発生する確率は70%~80%である。各地区の防災体制は十分であるか。発生する前にその準備を積極的に主導していくのが町の仕事である。

町長 資機材は自主防災会設立時に町が整備している。不足分は自主防災会自身で助成事業を利用して整備出来る。

宮本 整備したのは早い地区で平成17年、遅いと

ところで31年である。現在の助成金制度も新しく区長になった方は知らないもつと積極的に提案、広報すべきである。

宝くじ助成金制度を利用したのは2地区である。

町長 積極的にでないとの事であるが、自主防災会には防災意識を高めてもらう中で日頃平時の時に積極的に支援・協力していく。

宮本 非常食や水等の備

蓄品を各地区に配備すべきである。

町長 小浦公民館、阿尾備蓄倉庫、田杭集会所に保管している。

宮本 避難所運営体制は大丈夫か。

町長 短期は町職員、長期は自主防災会・区が行う。

宮本 その訓練はしたか。

町長 パーテーション設置訓練は産湯・小浦区で行った。

宮本 産湯集会所を避難所として利用するのか。

町長 津波ではなく、風水害の時に職員が待機して使う。

宮本 総事業費約10億円を掛けて建設中の比井漁港集落道（天路山道路）を避難所・避難場所としてどのように利用するのか。

町長 一時避難場所として利用する。

宮本 備蓄倉庫的なものを建てる考えはないか。



津波の遡上が懸念される西川

町長 地元と相談しながら出来るかどうか検討する。

宮本 東日本大震災時、川沿いにある大川小学校では生徒108人中74人が死亡・行方不明になる「まさかの坂」が起こった。西川の避難体制、避難経路は大丈夫か。

町長 状況により無理に西川を超えて避難せず、職業訓練センターに逃げると良い。町ホームページの動くハザードマップで津波の動きを確認すれば良い。

宮本 町のホームページと言われても、高齢者には難しい。

「地震だ逃げろ」が鉄則である。

町長 それが可能である。

宮本 町には16名の防災士の資格を持った職員がいるが、各地区の防災状況把握等その人材を総合的に活用出来ていないのではないか。

町長 職員全員が地域の事を考え、取り組む事が大事である。今後十分検討する。

宮本 比井から小浦公民館までの避難は難しい。比井小学校を避難所に出れないのか。

町長 土砂災害の区域に入っているので出来ない。

宮本 天路山の道路工事で山を削り、土砂の量も減り、地形も変わっている。出来ないでは無くないか。

町長 何とも言う事は出来ない。

西岡 佳奈子 議員

子育て支援として出生祝い金を 町長 必要があるとは考えにくい



子育て支援の町づくりを

西岡 日高町は、和歌山県内でも数少ない人口増加の町である。昨年実施された国勢調査でも増加し、これで30年間人口が増え続けているというところになる。増加の要因は、地形や地価、利便性、生活基盤・環境整備などさまざまな要素があるが、日高町に住みたいという人が大勢いることに、誇りを持ち、行政運営を行なっていくことが必要だと考える。

特に近年は、子育て世代の人たちの転入が多く、町の施策への期待も大きい。核家族・共働きがあたりまえの中で子育てをしていくためには、その子育てを支える仕組みづ

くりが不可欠である。産休・育休あけから安心して子どもを預けられる保育所、子どもと一緒に遊んだり子育てを相談できる場所、小学校入学後の学童保育、日常的にまた臨時に預けることができる仕組み、保健・医療面でのサポート、教育内容・環境の充実、そして財政的な支援等々、子どもの成長段階に応じた様々な支援の充実が求められる。

財政支援として出生祝い金制度の創設を。

町長 以前、お祝いの品を贈呈していたが、平成30年度を最後に廃止した。お子様の誕生は、大変おめでたいことではあるが、町からのお祝いの品やお祝いを贈呈する必要はあるものとは考えにくい。今後実施する予定はない。

くりが不可欠である。適正な金額と考えている。ただし、ひとり親家庭に対しては、半額補助をしており継続していきたい。

西岡 ファミリーサポートセンターは非常に好評である。そんな中で、長時間の利用になると負担となってくるのと、ある。県の「紀州っ子いっぱいサポート」の育児助成事業がある。1世帯年間1万5千円が上限で対象者も限定されるが、ひとつの支援制度として取り組みを。

町長 運営に係る4者協議の場で検討していきたい。

子育て支援の充実についての他の質問項目

- ・町立保育所の0・1歳児定員の増員
- ・土曜日の保育時間を平日と同じ時間に
- ・子育て支援センターの運営内容
- ・学童保育の早朝・延長保育料金の軽減
- ・多子世帯への財政支援

西岡 新型コロナウイルス感染拡大を防ぐための検査について問う。文科省が発表した抗原検査キットの活用はどのような状況か。保育所、小・中学校、学童保育所などの感染拡大を防ぐため、

抗原検査キットの活用を

町として抗原検査キットの活用をすべきだと考えるがどうか。

教育長 4箱（40回分）が9月中に配布される予定である。

教職員の使用が想定されているが、補完的対応として小学校4年生以上の児童生徒が使用することも考えられると記載されている。使用は、本人の意思、児童生徒の場合には保護者の同意の上で学校長の判断で実施を決定となっている。学童保育所も同様の対応を考えている。

町長 国からの検査キットに加え、町独自で手配するよう指示したところである。

西岡 ファミリーサポートセンター利用料への助成を。

町長 利用料は基本1時間600円であるが、どうしても必要な時に利用

する場合はほとんど、適正な金額と考えている。ただし、ひとり親家庭に対しては、半額補助をしており継続していきたい。

町として抗原検査キットの活用をすべきだと考えるがどうか。

教育長 4箱（40回分）が9月中に配布される予定である。

教職員の使用が想定されているが、補完的対応として小学校4年生以上の児童生徒が使用することも考えられると記載されている。使用は、本人の意思、児童生徒の場合には保護者の同意の上で学校長の判断で実施を決定となっている。学童保育所も同様の対応を考えている。

町長 国からの検査キットに加え、町独自で手配するよう指示したところである。

委員会レポート

産業教育常任委員会

令和3年度内の完成を目指して



完成間近の比井漁港集落道改良工事

8月25日、比井漁港集落道改良工事の進捗状況について調査研究をおこなった。

まず初めに、産業建設課より、工事の進捗状況と総事業費等の説明を受け、その後、現地視察を行った。

この事業は、地元であ

る比井地区からの要望で、当初の計画では、平成25年から6年間で、総事業費は約11億5500万円と見込み、取り組んだ事業である。

平成30年度には、埋蔵文化財の問題で、発掘調査や道路法線の変更などが必要になったことや、当町の補助要望額に対し、交付決定額が少なかった事などの諸事情もあり、令和2年度繰り越し予算をもって令和3年度内の事業完了を目指しているとの事である。

令和3年度をもって集落道整備の最終年度を迎えるが最終的には、総事業費9億7600万円、事業内容は、マイナス2m物揚げ場改良（延長41.9m）、集落道路（延長986m、道路幅員5m）、避難路2カ所（延長224m、幅員2m）、避難広場1カ所（標高24m、面積1650㎡）、他、安全施設一式と測量設計一式である。また、文化財の発掘調査費、道路法線の変更設計費で、別途、町単独費用として、



補強土壁工

1865万円が必要となった。

現地視察においては、漁港側その1工事の進捗率が80%程度で、工期内の10月29日完成予定であるが、比井小学校側からの、その2工事の進捗率が70%程度で、文化財確認調査等の遅れにより、工期内の完成は難しく、12月末までの延長を考えているとの事であった。

委員からは、盛り土や、のり面の掘削により地形が変化したことによる災害や、海への影響がないのか等の質問も出たが、下から高く積み込まれたブロック壁は、補強土壁工（多数アンカー）という新たな工法が用いられ、強度を増していた。また、のり面等においては、吹付処理をおこない、直接に民家等への影響はないとの事である。

より、湾内が濁ったことがあるものの、水の流れ等による影響は、今のところないものと考ええる。しかし、最近の集中的な雨量などで濁り水となり、土も湾内に流れている可能性があるため、工事が完了すれば、補助事業などによる、港の浚渫を検討したいとのことであった。

今後は、ガードレールや防犯灯等、安全施設を取り付け、その1工事のできたところより、舗装工事を施工し、年度内の完成を図るとの事である。当委員会としても、集落道の完成による利便性の向上と、住民の安心・安全を図るため、今後の進捗を見守っていきいたいと考える。

その他の活動

・小浦地区、久志・中志賀地区ほ場整備現場視察

活動計画

・各小中学校の通学路の安全性について

委員会レポート

総務福祉常任委員会

コロナワクチン接種状況は

7月2日と9月1日の2日に渡り、新型コロナウイルスの接種について、子育て福祉健康課から現状と今後の予定について説明を受けた。

当町のワクチン接種はふれあいセンターにおいて集団接種を5月6日から、65歳以上の方を対象に始まり、60歳〜64歳の方は7月10日から、50歳代の方は7月25日からと、高齢の方から接種が進められ、8月28日から12歳以上の方の接種も始

めている。その間、8月2日からは町内診療所で個別接種も始まり、町内2診療所でもワクチン接種を受けることが出来る。

また、近隣病院の集団接種については、ひだか病院・北稟病院・和歌山病院で実施された。

ふれあいセンターにおける集団接種は、10月3日に接種を希望する全ての方の2回目接種を終えることにより終了する予定であるが、今後の状況によっては再開することもある。などの説明を受けた。

委員からは、ワクチンの供給体制や保育士・教職員の接種状況についてなどの質問があり、8月21日までに希望者への2回目の接種を終了したとのことであった。

一時、ワクチンの供給体制に不安を感じることもあったが、これまでのところ全体的に混乱も無く接種が進められている。今後引き続き、事故の無いようにしてもらいたい。



集団接種は10月3日でひとまずは終了

空き家対策積極的に

7月2日、空き家対策について企画まちづくり課から現状の説明を受けた。

当町においては、平成30年度から5カ年で『日高町空き家等対策計画』が策定されているが、空き家の戸数は、平成27年度の調査で243戸、平成29年度では317戸、令和2年度では372戸と増加の一途である。また、特定空き家の指定について

も実績が無く、空き家対策の成果が見受けられない状態である。

委員会としては、和歌山県の「空き家バンク事業」や、国の「空き家対策総合支援事業」・「空き家再生等推進事業」を町主導で積極的に活用するとともに、固定資産税の減税措置を検討することを望む。

活動計画

- ・電子計算費の執行について
- ・新型コロナウイルス感染症対策について



年々増加する空き家

編集後記

ドイツのメルケル首相が退陣されます。16年にわたり、世界の政治に影響を与えてきました。中でも、コロナ禍での折に触れてのスピーチは、人々の心に響くものとして世界中に拡がりました。

物理学者だという彼女は35歳まで旧東ドイツに暮らしたといひます。だからこそ、民主主義国家として自由を制限することの重大性を説き、国民の心情に訴えながら協力を連帯を呼びかけられてきました。政治家としてのあるべき姿だと感じます。

今、日本の政治に求められるのは、命を守るための科学に基づく政治。国民の声を聴き、国民の心に届く言葉ではないでしょうか。

西岡 佳奈子

